

第 45 期  
事業報告

(2013年度)

自 2013年 4 月 1日  
至 2014年 3 月31日

公益財団法人  
内藤記念科学振興財団

# 目 次

〔 I 〕 第45期（平成25年度）事業概要	2
1. 第45期（平成25年度）の事業について	2
(1) 公募事業	2
(2) 助成事業以外の事業	4
2. 事業報告書附属明細書	6

## 〔Ⅰ〕第45期（平成25年度）事業概要

内藤記念科学振興財団は、昭和44年4月7日付け、委大第4の1号をもって文部大臣より設立の許可を受けて、定款に定められた諸事業を開始した。平成25年4月1日から平成26年3月31日に至る第45期（平成25年度）の事業活動として、定款第3条に掲げる、「人類の疾病の予防と治療に関する自然科学」の研究を奨励し、もって学術の振興及び人類の福祉に寄与することを目的として、定款第4条に基づき下記の諸事業を行った。

### 1. 第45期（平成25年度）の事業について

平成25年度は、以下の事業を実施した。

#### (1) 公募事業

##### ① 科学振興賞（褒賞）

科学振興賞は、当財団が定めた日本遺伝学会ほか計27の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、8件の候補を受け付け、選考委員会で審査した後、理事会において受賞1件を決定した。

##### ② 科学奨励金・研究助成

科学奨励金・研究助成は、356件の申請を受け付け、100件を採択した。

##### ③ 科学奨励金・若手ステップアップ研究助成

科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は、20件の申請を受け付け、3件を採択した。平成23年度および24年度よりの継続分それぞれ3件を合わせ、合計9件を助成した。

##### ④ 女性研究者研究助成金

女性研究者研究助成金は、出産や育児によって研究を中断した女性研究者の職場への復帰と研究業績向上の支援を目的として設立された。平成25年度は66件の申請を受け付け、20件を採択した。3年目を迎える平成23年度採択の9件は、審査の上継続を決定した。平成24年度継続分の20件を合わせ、合計49件を助成した。

##### ⑤ 海外研究留学助成金

海外研究留学助成金は、58件の申請を受け付け、13件を採択した。

##### ⑥ 海外学者招聘助成金

海外学者招聘助成金は、10件の申請を受け付け、10件全件を採択した。

以上、②～⑥までの5事業については、全国の国立・公立・私立大学など709の自然科学系研究機関の長、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼した。なお、④の海外学者招聘助成金については、この他に当財団が定めた27学会（長）にも推薦を依頼した。受領者の採択は、選考委員会での審査・選考を経た後、理事会で決定されたものである。

⑦ 若手研究者海外派遣助成金

若手研究者海外派遣助成金は、45件の申請を受け付け41件を採択した。

四半期毎に年4回申請を受理し、選考分担理事4名および選考委員長で構成される審査会で審議・決定された。

⑧ 講演助成金

当財団が定めた27の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、国際会議の開催時期に応じて、四半期毎に年4回申請を受理した結果、14件を受け付け、選考分担理事4名および選考委員長で構成される審査会で審議の上、常務理事が決裁し、14件を採択した。

⑨ 特定研究助成金

平成25年7月に第35回内藤コンファレンス『ユビキチン-プロテアソームシステム：メカニズムから病態まで』、同9月に第36回内藤コンファレンス『分子からみたエネルギーバランスと摂食行動の制御』を開催し、それぞれの組織委員会においてポスター発表者の中から10件を選出し、各内藤コンファレンスとも、10人に500万円、総額1,000万円を助成した。加えて平成26年度に開催される第37回内藤コンファレンス『バイオイメーキングがめざすもの』の組織委員4人に600万円、第38回内藤コンファレンス『生物システムの物質的基盤』の組織委員5人に900万円、合計9人に総額1,500万円を助成した。

公募助成金の応募件数と採択件数、平成25年度支払った助成金額は次のとおりである。

## 助成金の実績

科 目	申請数	採択件数	採択率	予 算	贈呈額
科学振興賞（含金メダル）	8 <sup>件</sup>	1 <sup>件</sup>	13%	10,500,000 <sup>円</sup>	10,546,795 <sup>円</sup>
科学奨励金・研究助成	356	100	28	300,000,000	300,000,000
科学奨励金・若手ステップアップ研究助成	20	3	15	31,000,000	16,300,000
（平成23年度からの継続分）	3	3	100		8,000,000
（平成24年度からの継続分）	3	3	100		8,500,000
女性研究者研究助成金	66	20	30	100,000,000	40,000,000
（平成23年度からの継続分）*	9	9	100		18,000,000
（平成24年度からの継続分）	20	20	100		40,000,000
海外研究留学助成金	58	13	22	45,000,000	39,000,000
海外学者招聘助成金	10	10	100	10,000,000	6,000,000
若手研究者海外派遣助成金	45	41	91	10,000,000	12,600,000
講演助成金	14	14	100	7,000,000	6,700,000
特定研究助成金	127	30	24	28,000,000	26,500,000
合 計	739	267	36	541,500,000	532,146,795

\*平成24年度に1件辞退あり。

以上、公募9事業において、申請739件に対して267件を採択し、総額532,146,795円を助成した。なお、上記助成額に加えて、科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は1,540万円、女性研究者研究助成金は4,000万円の次年度以降の支払いがすでに確定している。

全ての助成金の受領者一覧表を 添付資料 として巻末に掲載した。

## （2）助成事業以外の事業

### ① 講演事業（定款第4条第1項第7号）

#### a. 第35回内藤コンファレンスの開催結果

平成25年7月9日（火）午後から7月12日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレレーゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、東京都医学総合研究所・田中啓二所長を組織委員長として、第35回内藤コンファレンス『ユビキチン-プロテアソームシステム：メカニズムから病態まで』を開催した。平成25年度の費用総額は2,623万円であった。

#### b. 第36回内藤コンファレンスの開催結果

平成25年9月10日（火）午後から9月13日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレレーゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、産業医科大学医学部第1生理学教室・上田陽一教授を組織委員長として、第36回内藤コンファレンス『分子からみたエネルギーバランスと

摂食行動の制御』を開催した。平成25年度の費用総額は2,311万円であった。

c. 第37回内藤コンファレンスの開催準備

平成26年7月15日（火）午後から7月18日（金）正午まで、北海道二セコ町 ヒルトンニセコビレッジにおいて、大阪大学免疫学フロンティア研究センター・審良静男教授を組織委員長として、第37回内藤コンファレンス『バイオイメージングがめざすもの』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。開催準備費用として、平成25年度は、105万円を支出した。

d. 第38回内藤コンファレンスの開催準備

平成26年10月7日（火）午後から10月10日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼガトーキングダム サッポロにおいて、東京大学大学院理学系研究科・福田裕穂教授を組織委員長として、第38回内藤コンファレンス『生物システムの物質的基盤』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。開催準備費用として、平成25年度は、80万円を支出した。

② 内藤記念くすり博物館での企画展示

理事会での承認を得て、内藤記念くすり博物館での資料収集・展示事業として企画展『くすりと医療の照古鑒今（しょうこかんこん）～漢方の源流と医薬の近代化産業遺産～』を開催し、396万円を支出した。

③ 広報誌「内藤財団時報」の発行

本誌発行の目的は、当財団の設立趣旨と研究助成事業等の活動内容を公表し、大学・研究機関等およびご支援を受けた寄附者などの多くの財団関係者に、当財団への理解を促すとともに、定期的に活動内容のレビューを行うことにより、多方面からの継続的な支援を願うことにある。

第92号（平成25年8月29日）および第93号（平成26年3月25日）を発行し、寄附者、全国の研究機関、当財団の役員等関係者、助成金受領者、報道関係、他財団等に配布した。

\*「内藤財団時報」第92号……………B5判95頁、2,200部、96万円

\*「内藤財団時報」第93号……………B5判113頁、2,500部、112万円

合計208万円を支出した。

## 2. 事業報告附属明細書

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。